

<アイディアのねらい>

発想や構想，技能に関する資質・能力の活用・発揮して，色水を混ぜいろいろな色をつくることで，自ら材料や場所などに働きかけ，発想していく力を育成する。

<授業の展開例>

○透明プラスチックコップに三色の色水を入れて混ぜ，いろいろな色をつくって楽しむ。



○つくった色水でどんなことができるか考え，コップを並べたり，他の容器に入れたりしながら友達と交流する。



○活動を振り返る。



自ら材料や場所などに働きかけ，発想していく力を育成

<講座の様子>



色水づくりを通して、自然にコミュニケーションが生まれます。

<講座の様子>



違う容器に入れて形を変化させ、そこから新たなイメージを広げています。

<講座の様子>



コップを重ねて色の組み合わせや色の変化を楽しんでいます。

<講座の様子>



中学校美術での色の学習（色相環）にもつながります。

<留意点>

導入では、児童が進んで造形的な活動を始めようとする提案をしたり、題材名を示したりしましょう。

発想や構想の場面では、いろいろな混ぜ方を試したり、並べ方を工夫したりするなど、児童の多様な試みを受け止め認める言葉掛けをしましょう。また、形や色などに対する児童の気持ちなど、造形活動で生じる感覚や気持ちを大切に、価値付ける言葉掛けをしましょう。

終末では、お互いの活動を紹介し合い、認め合う場を設定することで、活動のよさや色についての気づきなどを広めましょう。



<受講者の感想>

- 様々な色水をつくり出すこと，色水を並べることが純粹に楽しい。色水は失敗してもどんどんつくり直すことができるのがよい。色水をつくる楽しさ，並べたり重ねたりする楽しさを感じ取ることができる。
- 様々な色ができる喜びを感じながら色をつくり出す知識も得ることができる。材料の色水そのものが美しい。
- 色水づくりで身に付けた資質・能力を生活科の活動に生かせる。
- 卵パックに入れたとき宝石のようだった。凍らせて持ち歩きたい。
- コップ，玉子ケースなど，透明な入れ物を工夫してみたい。
- 混色について自然に学んだり，友達同士で鑑賞会が始まったり，いろいろと可能性のある題材である。



小学校低学年向けの題材ですが，中学校や高等学校では色相環や混色の学習に発展させることもできますね。

